

①明日香村観光会館

元高市村役場を改築した建物で明日香村の観光案内所になっている。明日香村観光開発公社と地域振興公社の看板が上っている。

②治田神社大鳥居

石造りの巨大な鳥居で昭和8年8月建立。石匠トサ・川端と刻まれている。西国三十三カ所名所図会(1848年)の中に描かれている「おかげ灯籠」がその両脇に建っている。

③産の宮神社(八坂神社)

安産の神様として「産の宮さん」と親しまれている。明治43年に治田神社と合併されるがその後旧社を復して現在に至る。昭和20年代まで夏の祭礼には夜店が並び、夏の風物詩でもあった。

④常谷寺

建久2年(1191年)3月に法然上人59歳の折、飛鳥の里を訪ねられ、現在当寺の存在する地で3日間滞在され、聖徳太子誕生所である橋寺にも参詣された。そして記念のために草庵を結び置かれたが、後世世俗がその大徳を仰ぎ慕って堂宇を建立した。

⑤岡本寺

真言宗豊山派に属する祈願寺。舒明天皇の岡本宮ともいわれる旧蹟を伽藍として、「岡本寺」としたとも伝えられ、本尊「如意輪観世音菩薩」は平安末期の木彫座像で、「子安観音」として、安産、求子、良縁等にご利益があり親しまれている。境内にある「阿字石」は「良縁・子授」の石。

⑥治田神社

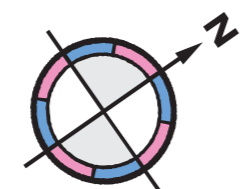
境内は創建当初の岡寺の伽藍跡でもあり、白鳳時代の瓦や幾つかの礎石も残り国の史跡に指定されている。明治になり今の治田神社となったが、それまでは岡寺の鎮守・八幡宮であった。現在、祭神応神天皇を主神として、他に二柱を相殿に併祀して今日に至っている。

⑦岡本寺遍照殿

岡本寺の大師堂にあたる。平成6年に弘法大師を祀った遍照殿が完成。「あすか大師」として親しまれている。境内の修行大師像の周りには、四国八十八箇所のお砂が納められ、厄除けのお砂踏みも出来る。

⑨嶋田邸門

慶応4年(1868年)神仏分離令による廃仏毀釈の際、多武峰の土地より移築されたもので、重厚な造りの門となっている。



0m 50m 100m
地図の上の1cmは約25mです。



⑩伝飛鳥板蓋宮跡

舒明天皇崩後、女帝として即位した皇極天皇が造宮。だが、その位置について諸説があるので、伝承とされる。そこからは瓦の出土はなく、玉石が敷並べられた大井戸や掘立柱、高床の宮殿建築の遺構などがある。



⑪飛鳥京跡苑地

平成11年の調査で初めて確認された。平成16年に史跡と名勝の指定を受ける。宮都の後方(北方)に展開する後苑であったとされ、飛鳥川に近接し広範な平地に造営されており、その周辺からの眺望も見事である。



⑫明日香民俗資料館

明日香民俗資料館に併設されている。明日香村内に遺された民家が移築され、公開されている。色々なイベントにも活用され(明日香伝承芸能発表会など)訪れた人たちに懐かしい体感を味わせている。



⑬亀形石造物

目は丸く彫られ、足には四指が表現され、それぞれが外側を向く。甲羅部分は円形播鉢状に彫り込まれ、およそ200リットルの水を溜めることができ、何らかの祭祀に使われたともいわれている。



⑭酒船石

長さ5.3m、幅2.3mもある花崗岩の表面は幾何学的な模様彫られている。数個の丸いほみと、それを結んだ彫り跡から酒を作ったり、油を絞ったり、また薬を作ったのではとイメージが広がる。



⑮岡戎神社

高市御懸坐鴨事代主神社でかつて商家が居並んだ本町通りと仲之町の街道筋にあって商人による戎講もあり大切にされてきた。現在は、「岡大字にぎわいの街づくり実行委員会」の活動拠点となっている。



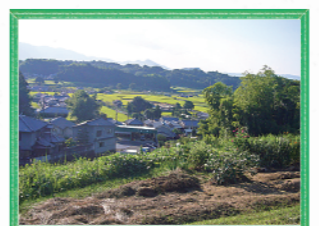
⑯南都明日香ふれあいセンター

明日香村名誉村民犬養孝(文学博士)による犬養万葉の魅力を発信しようとして平成12年に開館。犬養直筆の万葉歌の軸装や原稿が常陳され、館の中庭には、犬養孝揮毫による山吹万葉歌碑等が建つ。また、村民のふれあいセンターともなっている。



平山郁夫 歌碑

にぎわい通り



甘樫丘を望んで



夕暮れの岡の町並



岡寺三重塔から望む

⑧岡寺

正式名称「龍蓋寺」。土地の名に因んで古くから「岡寺」と呼ばれている。真言宗の豊山派に属し西国三十三カ所観音霊場の第七番札所。我が国の法相宗の祖である義淵僧正により開基され、東大寺の行基や良弁はじめ奈良時代の高僧は殆どその門から出ており、三綱を持った官寺・学問寺であった。本尊は白鳳期の「如意輪観世音菩薩」で、厄除けの観音さまとして古くから親しまれている。